

菅家定録

番外書冊

			和書門類
	一五九六八	三	
	函	架	
三冊			

庫文閣内			
	一五九六八	三	和書類
	函	架	
二〇架			

傳記

内閣文庫	
番號	和 15968
冊數	3 (1)
函號	155 389

155-389

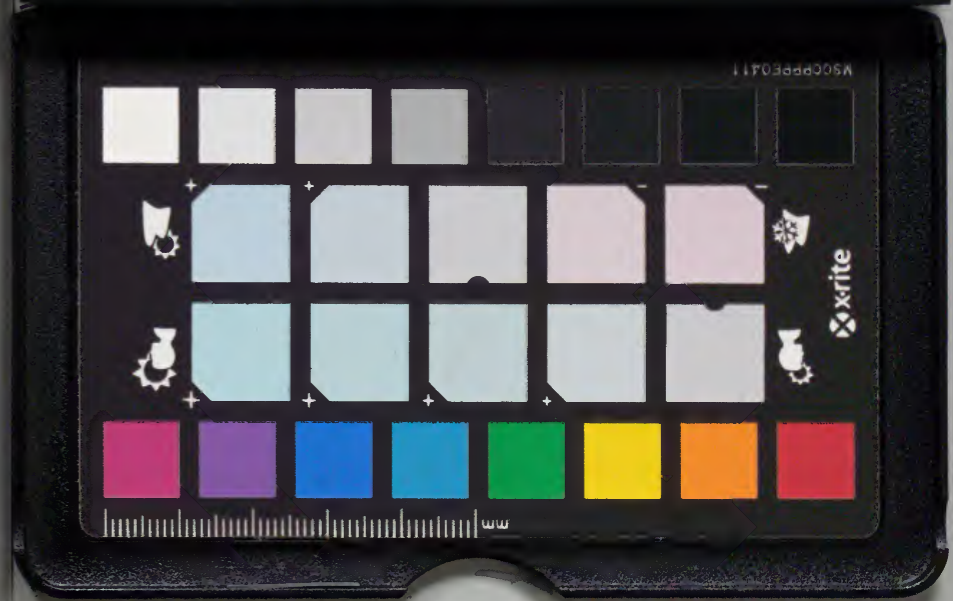


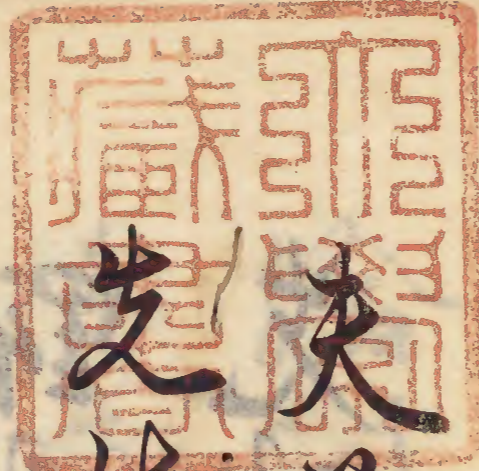
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





夫 友家夏録と 松本愚山

生れは 是れ 子也 病なり

承 之 香氏 子 餘 商 子 由 之

序文 此 抄 之 也

とる 記 文 此 人 之 抄 也 ぬ

筆つゝしるふに云ふ系を主初
子書にたりぬしは未だ
書終作しむと云ふ其昔
野見宿禰は初也
先神菅公濃世のせ

谷に云ふ事ありは
事々の事ありは
裔孫の幾子代も濱に
のつゝしるふに云ふ
書に云ふ事ありは

一
しるはけ 愚山先生 儒学
頭業として常に

先神宮公の高徳を
ひらき ありて
いふは ありて 世人

志をこころに 思ふに
松竹梅の三徳ありて
をこころに 三巻ありて 名

うらうの 編み 文書
いふは ありて 文書

昔に遺る事
孫より志す理

寛政十戊午歲冬十月

勘解由長友為ら謹志

菅家定録松集目錄

- 凡例 えんれい
- 御神像 ごんしんざう 石帶并笏圖附 いしおびならびしやくず
- 御年譜 ごねんぷ
- 御系圖 ごけいず
- 野見の宮祢の事附すほひに始り并ふと師の姓 のみのみやねのことつけすほひに始り并ふと師のせい
- ちりふ事 ちりふこと
- 菅原の姓より改りし事 すがらのせいよりかへりしこと ちりふ事 ちりふこと 菅原の姓 すがらのせい ちりふ事 ちりふこと
- 月家乃事 つきけのこと 給事 たまはるごと 科事 かこと

- 清之郷の事本誌に集文華を載せしむ
- 是言卿の事附之雅寺の之絶陸希之若原の院
紅梅殿乃若原

- 梅園
- 梅園
- 梅園

清之郷の事本誌に集文華を載せしむ

凡例

○ 此の圖乃以畫文なり好りる御神の事と作と畫
 ざらにやゝさるん世傳の傳る所乃從の如くはん
 ちやゝ海江の事乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 今これ善本とて一史より録し本誌とて近世
 儒先の説とて一史より採補し式と刪畧し一説と
 支証なきものどもとて一史より採り

○ 卷之首より本誌の系圖と如くは後歷を二見しゝゝゝ
 一史より本誌と傳るものどもとて一史より採り
 通せしめんが事あり材料なり



俊德赫烈補袞聖明材稱周幹
諤賡虞廷乃遭不祥貝錦以成
忠精動天天其助誠維文維績
百世無差煥為斐為掎如春華
寵賜是膺祀典是嘉神明四施
厥格弗遐

正二位管原胤長拜題

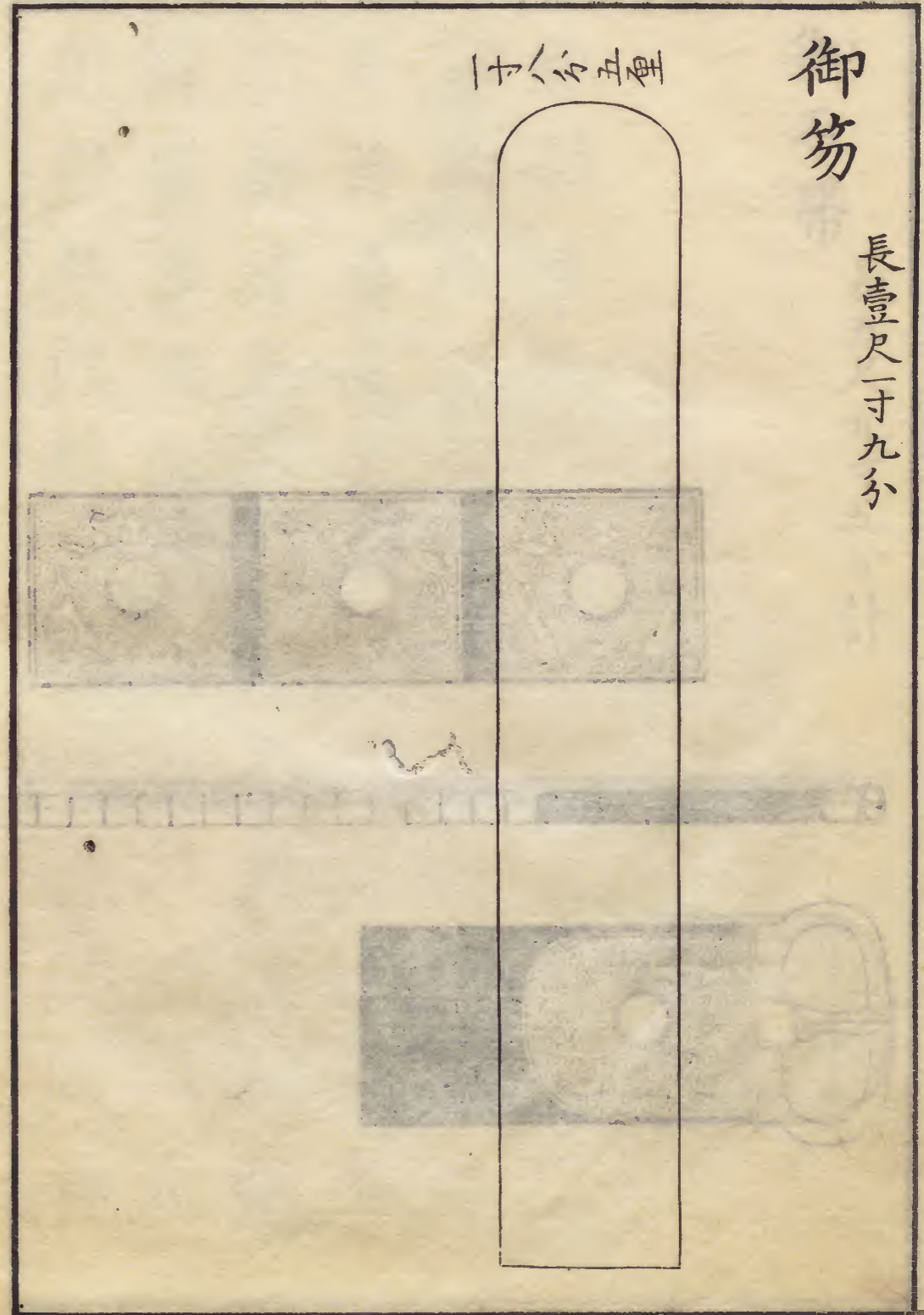
管原胤長

正二位管原胤長

御笏

長壹尺一寸九分

御笏



管公年譜

乙丑。承和十二年。月日。公生。

戊辰。嘉祥元年。

辛未。仁壽元年。文德帝即位。

甲戌。齊衡元年。

乙亥。二年。公甫十有一歲。始賦五言詩。

丁丑。天安元年。

己卯。貞觀元年。清和帝即位。

壬午。四年。公十有八歲。進士及第。補文章生。

甲下野。推椽。

甲申六年。叙從六位下。父是善授諸生於後
漢書畢各詠史。公得黃憲作詩并序。
丙戌九年。公侍內宴賦詩。是歲補文章得業
生進玄蕃助。

庚寅十二年。正六位上。
辛卯十三年。任少內記。

壬辰十四年。公二十有八歲。為存問渤海客
使會母伴氏卒。停職五月。奪情起復。任兵
部少輔。亡何遷民部少輔。
癸巳十五年。公赴越州祈神禳災。

丁酉元慶元年。陽成帝即位。公三十四歲。為
式部少輔。文章博士。

戊戌二年。文德實錄成。代藤原基經作序。
己亥三年。授從五位下。

辛丑五年。五月。父是善薨。
壬寅六年。正月。兼加賀權守。

癸卯七年。月。渤海國使裴頌來聘。推行
治部太輔事。與頌倡和。

甲辰八年。上太政大臣職。掌有無。并史傳之
中相當何職疑議。

乙巳。仁和元年。光孝帝即位。

丙午。二年。公四十二歲。罷式部少輔。文章博士。二官。貶讚岐守。赴任本州。

丁未。三年。入朝。

戊申。四年。宇多帝即位。授正五位下。復赴讚

岐。是歲旱。祈雨。城山神立雨。

己酉。寬平元年。

庚戌。二年。秩滿。歸京師。乃聽昇殿。

辛亥。三年。再任式部少輔。左中辨。尋補藏人

頭。屢上表辭職。不許。或曰。田口達音卒。

壬子。四年。授從四位下。兼左京大夫。奉勅脩

類聚國史二百卷。

癸丑。五年。累遷參議。左大辨。兼勘解由長官

春宮亮。

甲寅。六年。公五十歲。門生設宴。頌壽。帝竊遣

人賜文資金。是歲充遣唐大使。會唐室衰

亂。不果。

乙卯。七年。拜中納言。兼近江守。遷春宮大夫。

侍從。前是公侍東宮。試一時十首詩。至此

再應皇太子令試。一時二十首詩。是歲勅

海國使裴頌復來聘。公奉勅與紀長谷
雄往鴻臚館倡和。

丁巳九年。遷推大納言兼右近衛大將氏長者。

戊午昌泰元年。醍醐帝即位。賜內覽宣旨。
己未二年。公五十五歲。陞右大臣。屢上表辭

職。優詔不允。

庚申三年。獻家集二十八卷。

辛酉延喜元年。正月。俄貶太宰。推帥尋赴本

府。

癸亥三年。二月廿五日。公薨于府。實五十九歲。
越幾日。禮葬安樂寺。距今寬政十年戊午。九百九十有八年。

菅家御系圖

公諱某贈正一位大政大臣

高視右大辨
從五位上

雅規山城守
從四位上

資忠右大辨
從四位上

孝標上總介
從四位上

定義大學頭
從一位

是綱大學頭
正四位下

宣忠治部推少輔
從五位下

長守大藏卿
從四位上

為長參議大藏卿
正二位

長成參議正二位
高辻家長者

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including a date: 公長于...]

在良

式部大輔從四位上贈從三位
唐橋家 高辻大學頭是綱朝臣弟

高長

參議式部大輔從二位
五條家 高辻參議為長卿次男

茂長

治部卿正三位
東坊城家 五條參議長經卿次男

長時

參議式部推大輔從二位
清岡家 五條推大納言為庸卿三男

長義

推中納言正二位
桑原家 為庸卿四男

菅家宣錄松集

○野見の宿禰の事付すしむら好り并去師の姓也

りふ事

神宮の國にさききその始の天照大神の御子天の孫日命
より御神よりせんその子と天の夷鳥命より天の武日
照命より天の文子より本雲の國より天降りより海より
天よりさききよりめり神宮と神樂の神宮よりわらむそ
は十二世の孫と鷹湯命よりめり世人磯城瑞籬の言天
が下よりめり御代より仕り勅りよりさきき國造より定り
ふりさき菅原氏のをき視り事

今按天孫日向の國高子地乃寧々を降臨すゆん
とん天孫日命もあまを志國一行のひまの國とすまき
少くは都よりふるる寶物と杵築の地を飛置く
まひしふるるを杵築の神宮を即今の俗より大
社の事とす此神宮ののり代々の朝廷もこれ
ふらひし見し無仁天皇の御時と地寶の
とどこのがしあふるる物部の十根の太連
とそがらしむる十根とせられと堂ら
し國史より國より世より秦の徐福の
本れより入當書百篇の金策文とふとこれ大結

傳るふやいふちやまていん

鸛瀧淳命の弟と甘美乾飯根命とも人の事と野見の宿
稱とす人天性勇氣有り力量人より纏向珠
城の宮乃朝廷に仕奉る此も當麻の太連とす
と此強力はほれ何れはぬ人向く雌雄と決
事とすみみうがあれと君臣同やとす
野見の者稱と進めとす一試その力と角
心二人もひて名とす踏けぬ所入太連の按
くおと報とす恩を以て太連の所領
よりぬれ吾朝す人のけり



世氏とともし事なりん定めしりしむかひあはれ續ついでよ
しりし陶たうの地とまりり土師とじの戦いくさに任まかせ姓せいと改かへり土師とじの
臣おみとめさるゝののち又帝みかどと菅原すがはら伏見ふし見の里むらよ葬くわいり奉ほうる
やうとて土師とじ氏うぢ代しろと相あひけざりて喪葬そうさうの事こと承うけふと日本やまと
書しよ記きよまよせり

今按いまあは孔子こうしののち備びと作つくるも乃のち後のちなる人ひととさる
所ところ貝かいののちぬぬ植物しょくぶつ作つくりて陶たう葬さうと止とどり事こと莫な大だいの功こう
徳とくなり先儒せんじゆもこれと仁者にしやの勇ゆうとて下くだり論ろんトたつ
れとて姓せい子孫しそんの今いまは連綿れんめんしとて事こと天てんの報ほう應おう
ののちとてつとて下くだりて世よも猶なほちと陵墓りやうぼよ塩菰しほこ

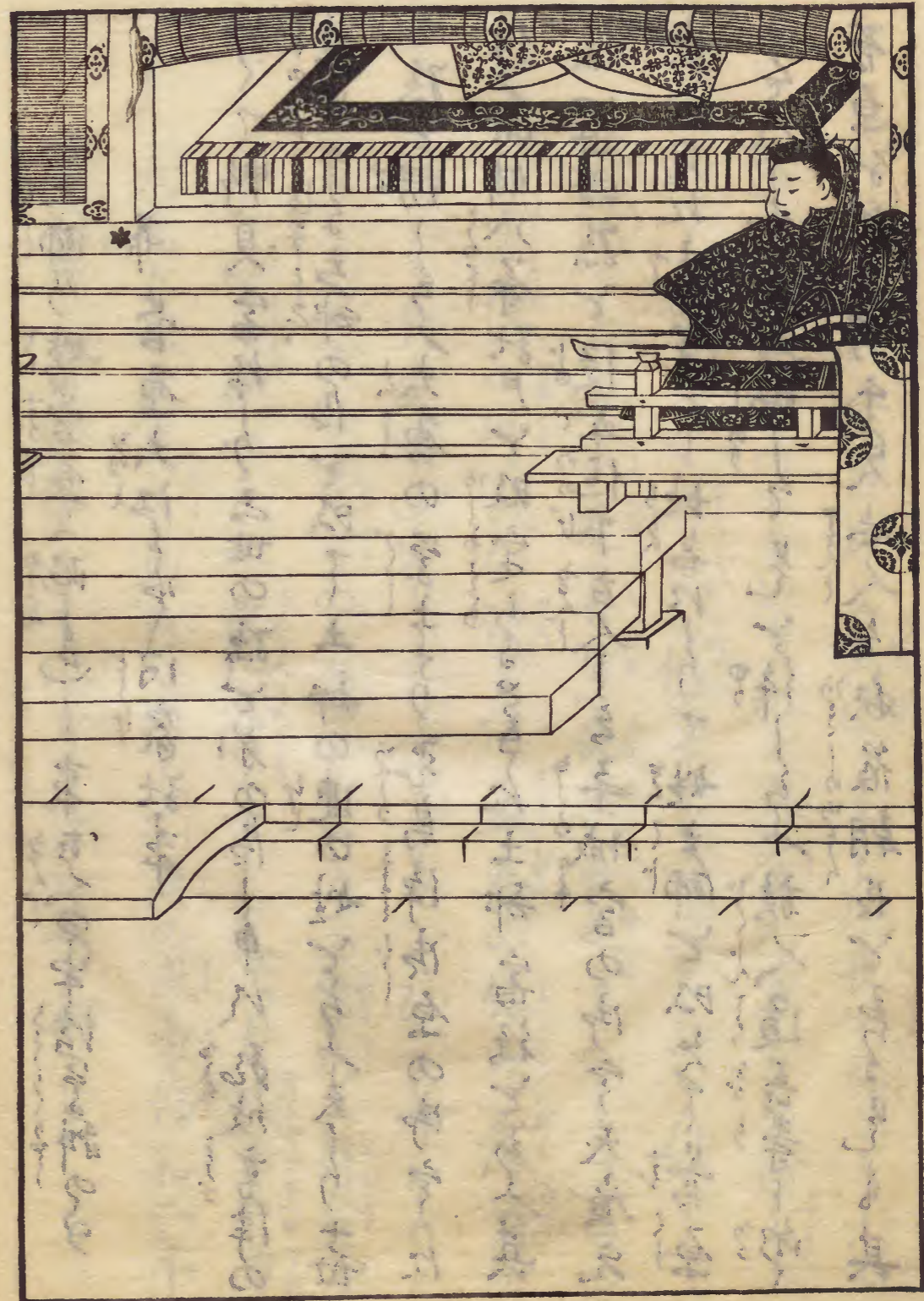
しりしと姓せい子孫しそんり

大和國顯宗帝のは又攝摩國
仲哀帝のはよとてなせり

み所ところのち

中なかつよりりりおとん陶たうははりせせ異形いけいののちせせ姓せい何なにの
用もちとて知しるるとて姓せい多たとて世よの神代かみよの實じつ
とて世よのたたるる非ひんん皆みな建物のたてものとてとひひりりとてとひひりり
とて心こころ謂い明あきら器きとてりりとてとひひりり

又按またあはとん野見ののいりて土師とじの姓せいとてとひひりりし先まづとて出い
重おも臣おみなるるとて姓せい氏うぢ孫そんよお重おも臣おみ天てんのひひとてり命いのち
の後のちなりとて記きとて是こゝありとて土師とじの戸かどとてとひひりり
記きとて野見ののいりてとひひりりとて重おも臣おみとてりりとて事こと二ふた代たひ
よがれふとて人ひと後のちとてとひひりりとて事こと二ふた代たひ



居所の地名よりてなり長岡宮御宇延暦九年十二月
す祢の尸と改朝臣の姓とありて菅原の朝臣とありて
人卒後此より族人道長よりなり一姓尸とありて
とみ連綿なり

々按其時の表文よりん土師の連とありて凶儀
預る尸なりある事と今案と加下處より
坂よりんと思ひ且とて此賤役と恥しとて改えらる
一やとて又道遥院殿の昔と清傳記より長とて古
人の長男とありて誤り清の御すかりり古人
長男にて弟達三人あり國史より人の男に衣冠と

よりとあり即ちなり

瀬江守菅原の古人よりて阿波守宇庭の子と儒者の
一世人より一人なり世俗より奇も合事と好まざれば
その卒よりありて後家より餘財ありて諸子寒苦に
通るよりなり國史より其傳よりて詳に記さるる卒を
一子目と記せばも又延暦此地侍読の夢と貴しと
て甲より男より衣冠とありて學業とほりてせらる
かど清の御も家よりと振ひけり從三位より昇進せ
らるんを博士の家より朝廷より學科と記さるるあり
始する由り御補任よりなり

と按古人かく学術乃優長なり其くは徳行乃懿
義なり事々其家其貧しく諸子の若くをそてりあ
りたふとこりり昔おれ務系と考ふに野見の官符の
殉葬と歩く仁徳と施せしり以降累世其人あり
る子孫任槐とく外進しりあつて因に積善の餘
慶しり後一叔古人の官國史ふきにけしめし後
ふちの轉せしり一幸の延暦四年其勅ふも又侍読
に百とせし一幸も侍読の勞と賞しりあつてのさし
事ハ明くかたり又古人乃卒せしり一の尊卑を脈
ふ弘仁十年其卒すも載しり續日本紀

延暦四年其下に故遠にさるる古人しりあつて
すも卒せしり一幸の其卒年の延暦元年

より三年も其甲に何とせしり
冬議後三位音人卿しりあつて備中分大枝の本生其子しり
そえ同日しり野見官符しりあつて土師しりあつて大枝の改めしりあ
時ふ當りて大枝と改て大江朝臣とせん事とせやがてあれと
許しり貞觀八年ののり世御若原の是善卿と師しり
事ハ博学の聞しりあつて文學とせしりあつて貞觀格式と
使せる大宰寮に東西に曹司しりあつて生徒と教導しりあつて
大枝の二家も長しり是より若江と稱しりあつて文學の家と

儒雅能師哲母二家過らるる

之按には家文學能起る世卿と始りて

望くを儀を昇進しむる誠を規模のり

一菅江能二家第一稱す

師弟能契ありされば後本檢中納言正房卿を掌

能師在せし日も天祥と崇祀する

これゆゑなり

○菅原清公卿の事 系文章秀集等重々集に

撰りて一書

從三位菅原清公卿之弱冠より經史少より延暦年

中之文章主ん補せらるる遣唐使の判官たりて

朔のら叙爵すは仁年中に詔ありて天下の男女の

り能安と移るは五位の能位記もわたりて

皆あ能卿の何れかりしを功少のん又陸奥の夏

野と令能義解と傳りて奏進せられ兼和六年從三位叙

し牛馬のり南進し到る事とありて

るひぬすはすのゆつみあ能凌を集文章秀集の二書と

撰述しるるも廿二傳一傳りて文集六卷有る

今按見京氏の説も能卿能より

進めりて記せしを誤り

又の能是吾卿もより大嘗の能在せし



又神漢寺鐘銘よりん勘解由長官式部大輔
鷹控守と何れと國史の係縁控守又の近江守
任ずともみへ指鷹守を任する事なり
金石の類の歴史に文と符合せざる其例多
し又後漢書と漢書と異なり是等皆の管公
より終に日本史に後漢書と管公の傳との
せまりの係りあり又その係史の傳乃題
よ教岡尚書と書らひし相とさるる事
なり叔を序文中の記し刻記を披重蒙と務
教と又の知是脚金之能感琢と器なり

何と云く其父師の侍り授受しむる事なり
北山雄の神漢寺の今も三絶鐘と世に傳へるなり
て其銘を世に傳へるなり序の右に拈廣相と作
る書に左兵衛督藤原敏行朝臣と事せり元吾國
よ金石の類世のそののいりし多賀城の碑の
うかきり者も其條を文筆乃てなくみたり
事跡詳なりし考へて或は風を以て讀
ぶべし其缺くして完くして頼りて金
銘の序を序者作者筆志なり其世名も
も其も又も拙の守字も鮮なりその
世人のい

愛當之山神護之寺三寶既備六度無虧唯所有梵
 鐘形小音窄故禪林寺少僧都真紹和尚始發弘願
 有心改鑄鎔範未成衣衾早化檀越少納言從五位
 上和氣朝臣彞範悼和尚之遺志尋先祖之舊蹤以
 貞觀十七年八月廿三日雇冶工志我部海繼以銅
 一千五百斤令鑄成焉恐年代久遠後人不知仍聊
 記於鐘側右少辯橘朝臣廣相之詞 銘一首八韻
 傳音在器 證果惟日 尔祖初業 厥孫聿遵
 宿昔三尺 今日千斤 體有寬窄 功無舊新
 山聲萬歲 谷響由旬 聞宜覺夢 和即歸真
 慈周世界 感及非人 雕琢勝趣 蒙叟當仁
 參議正四位下勘解由長官兼式部大輔播磨權守菅原朝臣是善銘

圖書頭從五位下藤原朝臣敏行書



高四尺三寸三分余

三尺七寸三分余

川く〜や〜も形かり道澄寺の隆乃銘なり
るものも又世に出入り

々按々世隆の銘乃序書一人掲廣相口の井手左
大臣法見云の子孫〜と九カのみ〜侍と賦一累
朝の侍續〜と博學乃字あり豊後中納言と
賜〜又藤原敏行朝臣と冬儀富士丸の子中
〜秋乃此達人なり此〜少あらず家世書法と傳く
〜も系派伊衛卿の即小野道風於長の際や
て入本道傳授の系傳も入〜らんも世に
書家なりき

又世郷の位〜と菅原乃復〜と拾芥抄あり
又菅原復と勅解由少落の南鳥丸の西き丁にありと
菅原大政大臣御所〜と或〜是言の家なりと書
時欽喜寺と又紅梅殿と聞〜と山の西面復
の亦〜と文某も宣風坊と書らひ〜所なり天祚の
誕生の地〜と今も菅大臣〜とびて御社と勅信あり
菅家の御嫡流乃好号と〜とせらるる菅原氏の
是善心乃家と〜と説是〜と

々按々世隆の書齋記あり宣風坊有二家と云
是云此書齋の旧跡なり其文中〜戸前近例有

